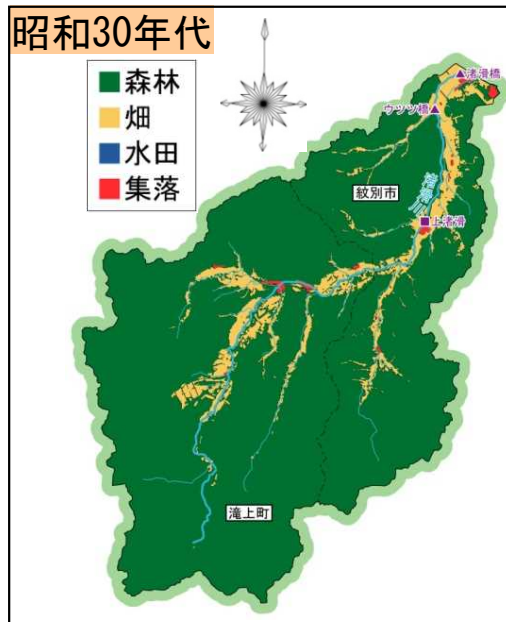


河川整備の効果

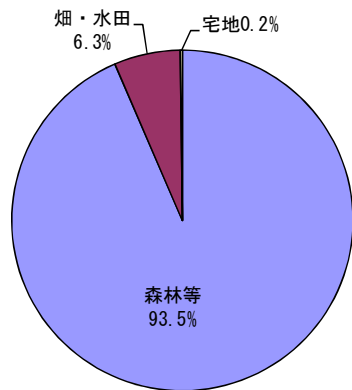
<ストック効果>

ストック効果(土地利用の変化)

- 渚滑川流域の低平地では、度重なる洪水・はん濫を契機に、昭和9年以降さまざまな治水対策が施され、土地利用は森林から畑及び宅地等の市街地へと拡大した。



出典：昭和29～30年の5万分の1地形図の地目より作成

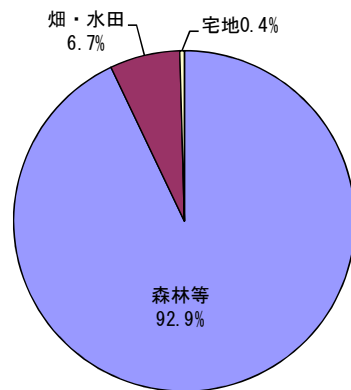


地目別土地利用の割合

出典：市町村勢要覧(昭和29年)の「地目別面積」より作成

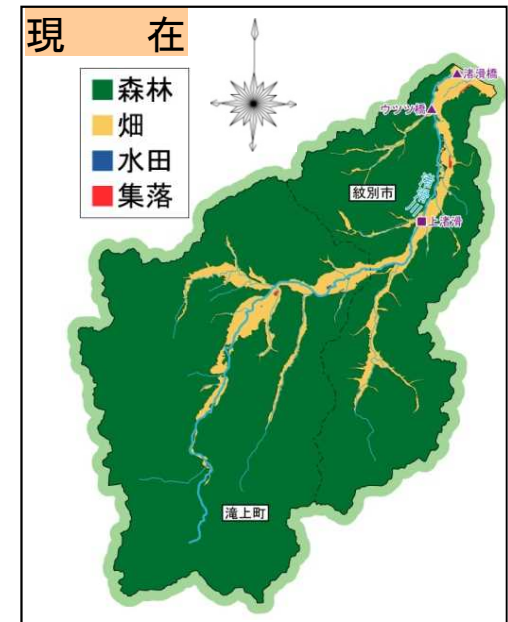


出典：昭和46～54年の5万分の1地形図の地目より作成

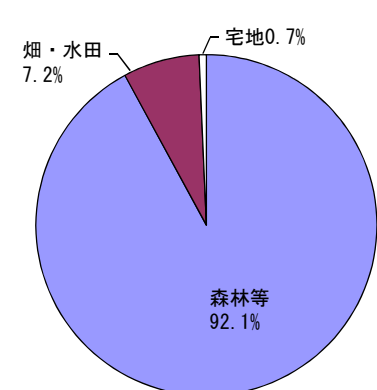


地目別土地利用の割合

出典：市町村勢要覧(昭和43年)の「地目別面積」より作成



出典：平成3～7年の5万分の1地形図の地目より作成

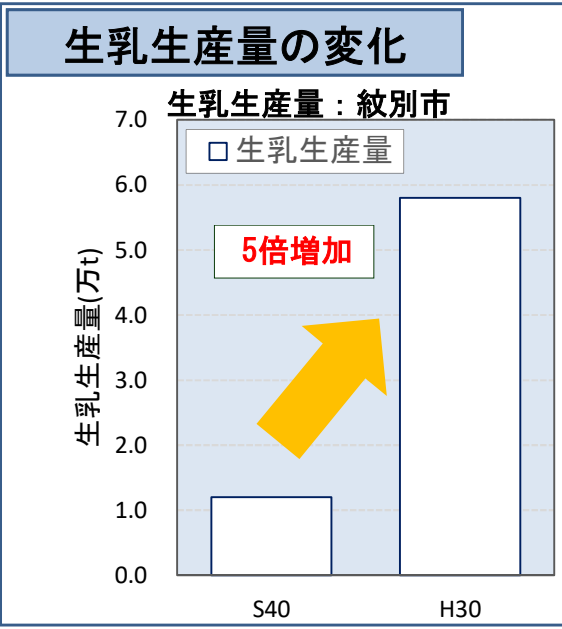
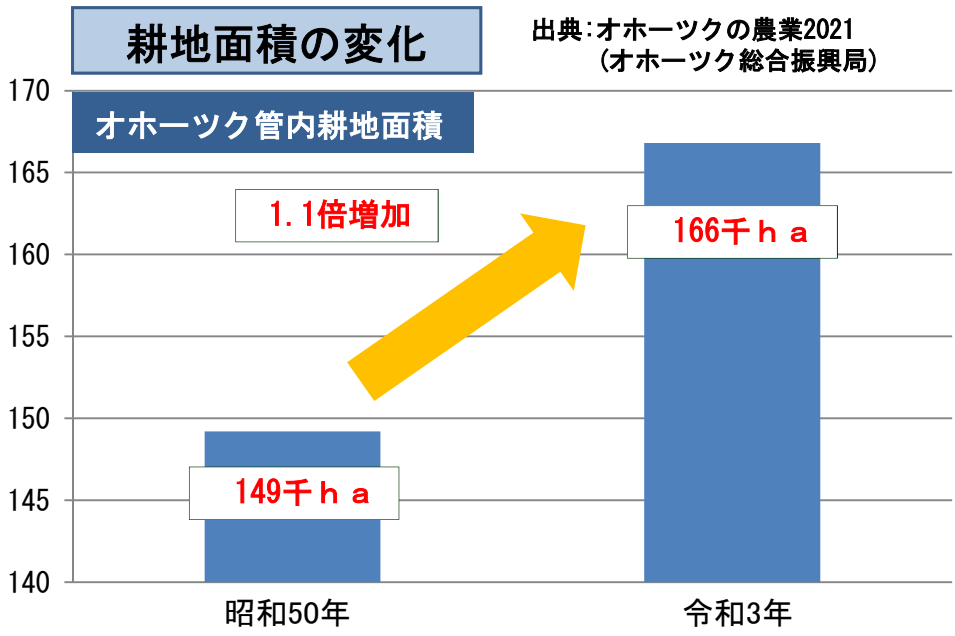


地目別土地利用の割合

出典：第129回(令和2年)北海道統計書の「地目別面積」より作成

ストック効果 (地域経済を支える河川事業)

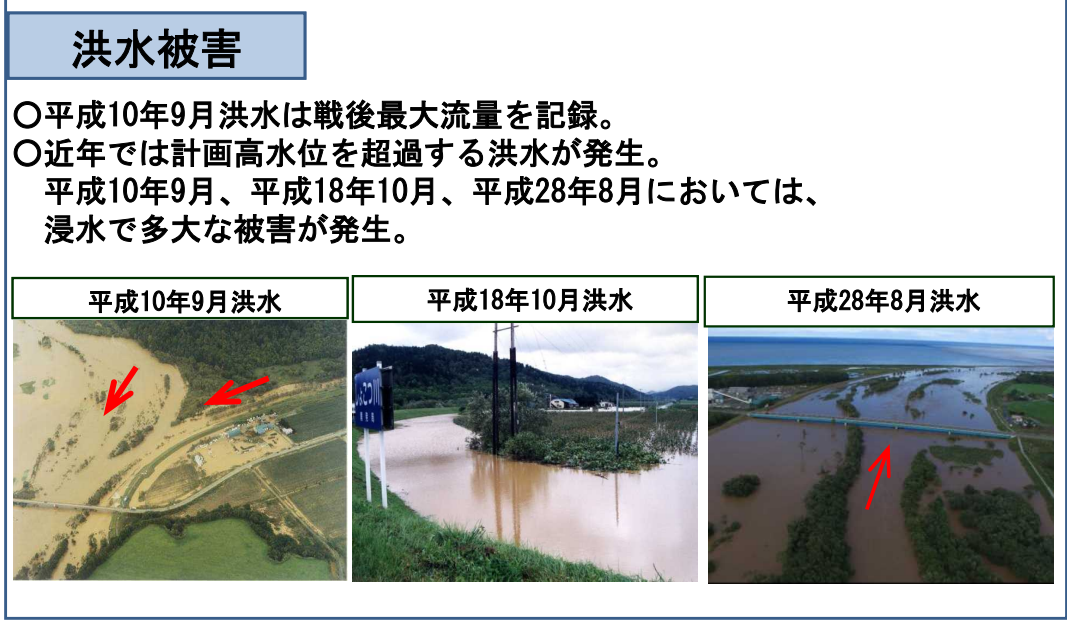
- ◆ 渚滑川流域では、酪農が飛躍的に発展した。
- ◆ 日本一のバター生産量を担っている工場の立地など、酪農が基幹産業として発展している。



渚滑川流域及び周辺地域では、過去に米作りが行われてきたが、相次ぐ冷害から畑作や酪農に転換した。

特に酪農は飛躍的に発展し、オホーツク地域の生乳生産量は昭和50年に約24万tであったのが45年後の令和2年には倍以上の60万t、紋別市では、昭和40年と比較し平成30年で約5倍の5.8万tまでに増加した。

なかでも、昭和49年建設のよつ葉オホーツク北見工場は地域酪農産業の拠点となっている。

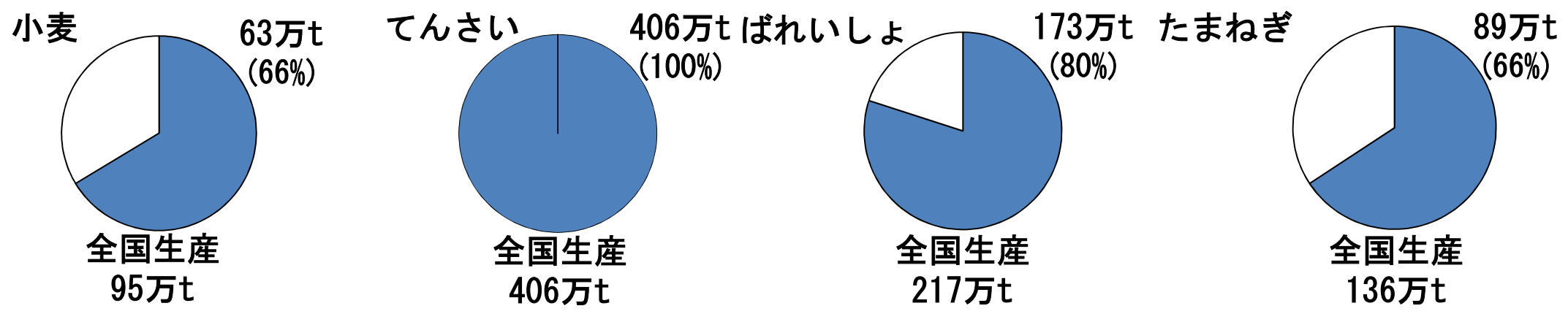


参考

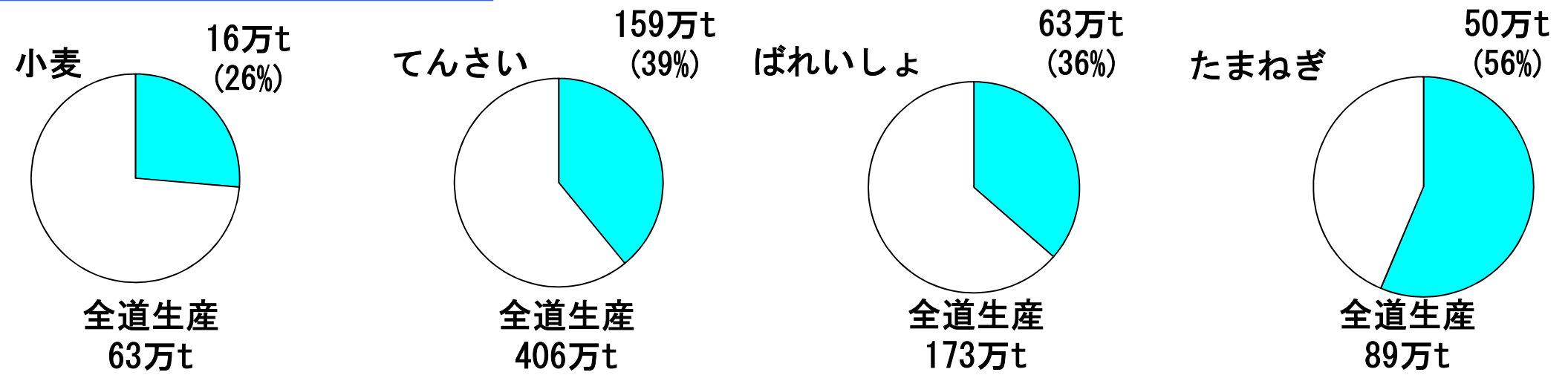
主要農産物生産量（全国シェア、道内シェア）

- ◆ 北海道が日本一の生産量を占める農産物には、小麦、てんさい、ばれいしょ、たまねぎ などがある。
- ◆ オホーツク圏では、てんさい、ばれいしょ、たまねぎなどが、高い道内シェアとなってい

■北海道が日本一の生産量を占める農産物



■オホーツク圏※の道内シェア



※オホーツク圏(北見市、網走市、紋別市、美幌町、津別町、斜里町、清里町、小清水町、訓子府町、置戸町、佐呂間町、遠軽町、湧別町、滝上町、興部町、西興部村、雄武町、大空町)